

新宿区次世代育成支援計画（後期）の素案 概要

総合ビジョン 「子育てコミュニティタウン新宿」

4つのビジョン

子育てを応援する人とサービスが豊富なまち
ワーク・ライフ・バランスが実現するまち
支えあいの子育てから新しい出会いと
世代を超えた交流が生まれるまち
都市の利便性が子育てに活かしているまち

4つの視点

子どもの権利を大切にし子どもの幸せを第一に考える視点
家庭の多様なあり方を尊重する視点
子育てを社会全体で支援する視点
サービスの質の向上と効果的な提供をめざす視点

基本目標

新宿を子育てしやすいまちだと思ふ人の割合を増やす

就学前児童保護者	35.9%	➔	45%
小学生保護者	35.0%	➔	45%

5つの目標

目標1
子どもの生きる力と豊かな心を育てます

目標2
健やかな子育てを応援します

目標3
きめこまやかなサービスですべての家庭をサポートします

目標4
安心できる子育て環境をつくります

目標5
ワーク・ライフ・バランスが実現できる環境づくりを推進します

15の施策

- 1 すべての子どもが大切にされる社会のために
- 2 子どもの生きる力を育てるために
- 3 子どもが心身ともに豊かに育つために
心とからだの栄養素 「遊び」
心とからだの栄養素 「文化・芸術」
心とからだの栄養素 「食」

- 1 安心な妊娠・出産からはじめる子育て
- 2 子どもの健やかな成長のために
乳幼児の健やかな発達支援
学童期から思春期までの健康づくり

- 1 子育て支援サービスの総合的な展開
子育て支援サービスの充実 経済的な支援
- 2 都市型保育サービスの充実
保育園待機児童の解消
多様な保育サービスの充実
学童クラブの充実
- 3 特に配慮が必要な子どもと家庭のために
障害児等と家庭 ひとり親家庭
外国人家庭 虐待予防及び被虐待児と家庭

- 1 みんなで子どもの育ち・子育てを支えあえる環境づくり
- 2 子どもの笑顔があふれるまちづくり
- 3 役立つ情報を届けるしくみづくり
- 4 もっと安全で安心なまちづくり
- 5 未来の子どもたちへの環境づくり

- 1 仕事と子育てが調和できる取組みの推進
- 2 男女がともに自分らしく生きるために

主な特徴

すべての子どもが健やかに育つ社会基盤づくりについては、家庭の経済状況の違いによる子どもの養育環境の差に応じた細やかな支援の課題と方向を示した。

就学前教育の推進では、子ども園の今後の展開について示した。思春期や若者への支援では、次世代育成を世帯形成期まで拡大した視点で、晩婚化・非婚化の現状を明らかにし、課題と方向を示した。子どもの文化芸術活動の推進では、文化芸術が子どもの成長に大きな力を持つため、子どもが文化芸術に触れることへの課題と方向を示した。

前期計画の1項目「親と子の健康づくり」を目標として設定し、子どもの健やかな成長のために、妊娠・出産期から乳幼児期、学童期・思春期までを見通した支援の必要性を課題と方向として示した。

保育園待機児童の解消では、増大する保育需要に引き続き的確に対応するための課題と方向を示した。ひとり親家庭支援策の状況では、父子家庭への支援策の充実を課題と方向として示した。外国人区民への子育て支援では、幼稚園・学校に加え、保育園でのコミュニケーションや日本語学習支援を課題と方向として示した。子どもの虐待の防止では、子ども家庭サポートネットワークと子ども家庭支援センターが効果的に機能するよう課題と方向を示した。

子どもの笑顔があふれるまちづくりでは、子ども・子どもを連れた人を温かく迎えるまちづくりの必要性について課題と方向を示した。子ども自身が情報にアクセスできる環境づくりでは、キッズホームページの開設も含め、子どもによる情報入手についての課題と方向を示した。携帯電話やインターネットと子どもたちでは、フィルタリングの普及・子どもや保護者に対する啓発活動の推進の課題と方向を示した。人と環境にやさしい潤いのあるまちでは、子どもの地球環境への関心や環境学習の大切さについて、課題と方向を示した。

前期計画の1項目「働き方の見直しへの啓発」を、ワーク・ライフ・バランスの実現のための目標として設定し、企業へのワーク・ライフ・バランスの普及・啓発と同時に、働く人自身の働き方の見直しについて方向と課題を示した。